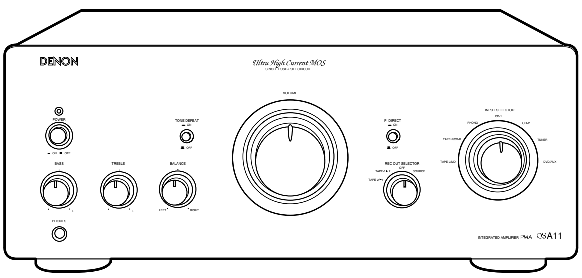
# DENON
# 取扱説明書

# PMA-SA11

## PRE-MAIN AMPLIFIER

## プリメインアンプ



**安全にお使いいただくために―必ずお守りください。**

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は、後日お役に立つこともありますので、必ず保存してください。

# 目　次

# 1 安全上のご注意

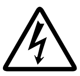
**正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。**

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

| | |
|---|---|
| ⚠ **警告** | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。 |
| ⚠ **注意** | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的傷害のみの発生が想定される内容を示しています。 |

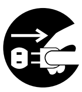
絵表示の例



△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



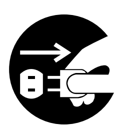
●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

# ⚠ 警 告

## ■安全上お守りいただきたいこと

### 万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

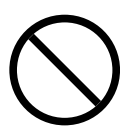
煙が出ている、変なにおいがする、異常な音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理をご依頼ください。
お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。



電源プラグをコンセントから抜け

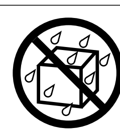
### 内部に異物を入れない

通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。



### 水が入ったり、濡らしたりしないように

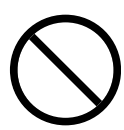
雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。火災・感電の原因となります。



### 電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。





# ⚠ 警 告 つづき

## ■安全上お守りいただきたいこと

**キャビネット（裏ぶた）を外したり、改造したりしない**

内部には電圧の高い部分がありますので、触ると感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。
この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。



**ご使用は正しい電源電圧で**

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

**ACアウトレットのご使用は表示供給電力内で**

接続する装置の消費電力の合計が表示供給電力を超えないようにしてください。火災の原因となります。
また供給電力内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器（電熱器具・ヘアードライヤー・電磁調理器など）は接続しないでください。

**雷が鳴り出したら**

電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。



**乾電池は充電しない**

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

**落としたり、キャビネットを破損した場合は**

まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

## ■取り扱いについて

**風呂・シャワー室では使用しない**

火災・感電の原因となります。



水場での使用禁止

**この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器を置かない**

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。



**この機器の上に小さな金属物を置かない**

万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

# ⚠ 注 意

## ■安全上お守りいただきたいこと

**電源コードを熱器具に近付けない**
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

**電源プラグを抜くときは**
電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

**濡れた手で電源プラグを抜き差ししない**
感電の原因となることがあります。

**電池を交換する場合は**
極性表示に注意し、表示通りに正しく入れてください。間違えますと電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。指定以外の電池は使用しないでください。また新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

**機器の接続は説明書をよく読んでから接続する**
テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

**電源を入れる前には音量を最小にする**
突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

**ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎない**
耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

## ■置き場所について

**不安定な場所に置かない**
ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

**次のような場所には置かない**
火災・感電の原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

**壁や他の機器から少し離して設置する**
壁から少し離して据え付けてください。また放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

# ⚠ 注 意 つづき

## ■取り扱いについて

### 通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いて使用する

### この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

### 重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

### 移動させる場合は

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
この機器の上にテレビなどを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

## ■使わないときは

### 長時間の外出・旅行の場合は

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

## ■お手入れについて

### お手入れの際は

安全のため電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。感電の原因となることがあります。

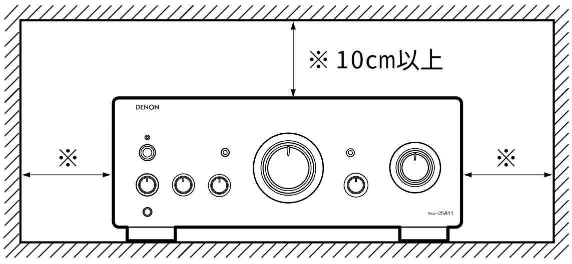
### 5年に一度は内部の掃除を

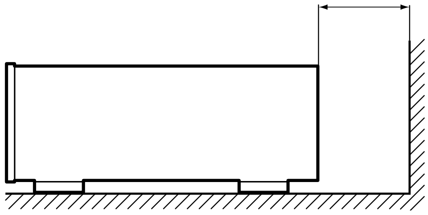
販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。
なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

# 2 取り扱い上のご注意

## 設置の際のご注意

■放熱のため、下図の通り本機の天面、後面および両側面を壁や他のAV機器などと10cm以上離して設置してください。



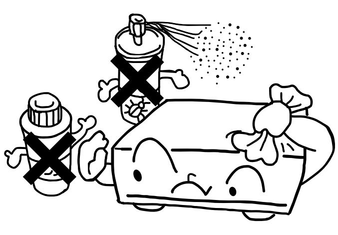

■テレビや冷蔵庫の近くに設置した場合、それらの機器から発生するノイズが混入することがあります。テレビや冷蔵庫からは1m以上離して設置してください。

## お手入れについて

■キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは柔らかい布を使用して軽く拭き取ってください。

◎化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

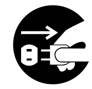
■ベンジン・シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると変質したり変色することがありますので使用しないでください。



## 使わないときは

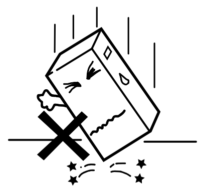
### ■ふだん使わないとき

◎電源を切ってください。
◎外出やご旅行の場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



### ■移動させるとき

◎衝撃を与えないでください。



◎必ず電源プラグをコンセントから抜いて、接続コードを外したことを確認してからおこなってください。

## その他のご注意

■説明のためのイラストは、実際と異なる場合があります。

■取扱説明書を保存してください。
この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保存してください。また、裏表紙の記入欄に必要事項を記入しておくと便利です。

### ステレオ音のエチケット




◎楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。
◎隣り近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
◎ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で小さくも大きくもなります。
◎特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。
◎窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
◎お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

# 3 本機の特長

### 1. “ 繊細さ ”と“ 力強さ ”を表現する、UHC-MOSによる出力回路搭載

DENONの最高級モノラルパワーアンプPOA-S1に採用のUHC-MOS (Ultra High Current-MOS FET)を使用したUHCシングル・プッシュプル回路により、安定した大電流供給と優れた小信号リニアリティを両立。これにより、“ 繊細さ ”と“ 力強さ ”の高次元での両立を実現しています。

### 2．SA（スーパーオーディオ）対応設計

DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどの持つ広い周波数帯域とダイナミック・レンジを考慮した設計により、新しいオーディオ・ソースの魅力を十分に発揮させます。

### 3．UHC-MOSによる出力回路の表現力をバックアップする強力な電源回路

“ アルミ砂型鋳物ケースに封入した大容量トロイダル・パワー・トランス ”、大型高音質ブロックコンデンサーにより構成された強力な電源回路が、UHC-MOSによる出力回路の魅力を十分に発揮させます。

### 4．優れたS/N特性のフォノイコライザーの採用

MM/MCの両タイプに対応する高S/N比のイコライザーアンプを搭載。ワイドレンジでハイクオリティーなアナログサウンドを実現しています。

### 5．徹底した防振設計

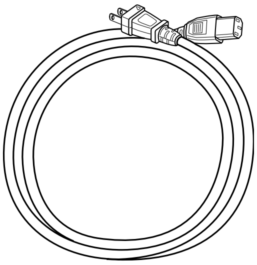
全面的に1.6mm厚の鋼板を用いた6ブロック・セパレート構造によりシャーシ剛性を高め、内外からの不要振動による影響を排除しました。

### 6．システム拡張に対応したプリアウト端子とパワーアンプダイレクト端子

パワーアンプ増設によるバイアンプシステムやアンプ内蔵サブウーハー接続に便利なプリアウト端子、AVセンター等の他のプリアンプ出力を接続してスピーカーを共通に使用するのに便利なパワーアンプダイレクト端子を装備しています。

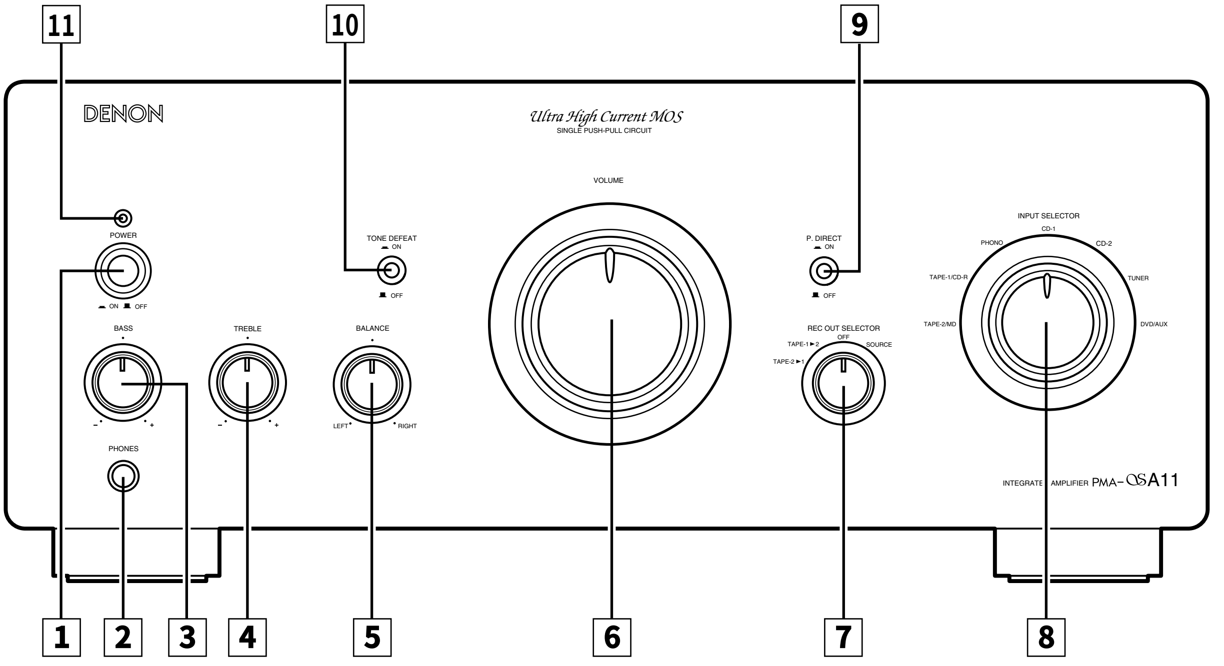
# 4 付属品について

★本体とは別に下記の付属品がついています。ご使用の前にご確認ください。

| | |
|---|---|
| 電源コード　1本<br> | 取扱説明書（本書）　1冊<br>製品のご相談と修理・サービス一覧表　1枚<br>保証書<br>（梱包箱に貼り付けられています。） |

# 5 各部の名前とはたらき

## (1) フロントパネル




### 1 電源スイッチ（POWER）

- 押して『ON（▬）』にすると電源が入り、11電源表示LEDが点灯します。電源投入後数秒間は、ミューティング状態になります。
- もう一度押して『OFF（■）』にすると電源が切れます。

### 2 ヘッドホンジャック（PHONES）

- ヘッドホン（別売り）でお楽しみいただくときに使用します。
- ヘッドホンを使用する場合は、ヘッドホンプラグを差し込みます。ヘッドホンプラグを差し込むとスピーカー出力は自動的に切れますので、スピーカーから音は出ません。

### 3 低音調節つまみ（BASS）

- 10トーンディフィートスイッチ（TONE DEFEAT）を『OFF（■）』にしたときに機能します。
- 低音域の音質を調節するときに使用します。
- つまみの位置が中央のときにフラット（平坦）になります。また中央から右（↻）に回すと低音が増強され、左（↺）に回すと減少します。

### 4 高音調節つまみ（TREBLE）

- 10トーンディフィートスイッチ（TONE DEFEAT）を『OFF（■）』にしたときに機能します。
- 高音域の音質を調節するときに使用します。
- つまみの位置が中央のときにフラット（平坦）になります。また中央から右（↻）に回すと高音が増強され、左（↺）に回すと減少します。

### 5 バランス調節つまみ（BALANCE）

- 左右の音量バランスを調節するときに使用します。
- つまみの位置が中央にあるとき、音量は左右同じになります。
- 右側の音量が小さいときは右（↻）に回し、左側の音量が小さいときは左（↺）に回して左右の音量バランスを調節してください。

### 6 音量調節つまみ（VOLUME）

- 音量を調節します。
- つまみを右（↻）に回すと音が大きくなり、左（↺）に回すと小さくなります。

## [7] 録音出力切り替えスイッチ（REC OUT SELECTOR）

- テープデッキなどに録音するときにテープデッキ1/CD-Rまたはテープデッキ2/MDレコーダー録音出力端子への出力ソースを選択します。

**SOURCE：**
録音するときにこの位置にします。
録音出力は[8]入力切り替えスイッチで選択されたプログラムソースになります。

**OFF：**
録音出力はOFFになります。録音をしないときは、よりクオリティの高い音質で再生するためOFFにすることをおすすめします。

**TAPE-1 ► 2：**
2台の録音機器間でコピーをするときに使用します。[8]入力切り替えスイッチの位置に関係なく、リアパネルのTAPE-1/CD-R再生入力（PB）端子に接続された機器から、TAPE-2/MD録音出力（REC）端子に接続された機器へのコピーができます。

**TAPE-2 ► 1：**
TAPE-1 ► 2と同様にリアパネルのTAPE-2/MD再生入力（PB）端子に接続された機器から、TAPE-1/CD-R録音出力（REC）端子に接続された機器へのコピーができます。

## [8] 入力切り替えスイッチ（INPUT SELECTOR）

- 再生するプログラムソースを選択するときに使用します。
- このスイッチを右（↻）または左（↺）に回して再生したいプログラムソースを選択します。

**TAPE-2/MD：**
TAPE-2/MD端子に接続したテープデッキまたはMDレコーダーを再生するときに使用します。

**TAPE-1/CD-R：**
TAPE-1/CD-R端子に接続したテープデッキまたはCD-Rを再生するときに使用します。

**PHONO：**
PHONO端子に接続したレコードプレーヤーを再生するときに使用します。

**CD-1：**
CD-1端子に接続したCDプレーヤーを再生するときに使用します。

**CD-2：**
CD-2端子に接続したCDプレーヤーを再生するときに使用します。

**TUNER：**
TUNER端子に接続したチューナーで放送を聴くときに使用します。

**DVD/AUX：**
DVD/AUX端子に接続した機器を再生するときに使用します。

## [9] パワーアンプダイレクトスイッチ（P.DIRECT）

- 押して『ON（▂）』にするとリアパネルのパワーアンプダイレクト端子に接続した機器の再生を行なうことができます。
- もう一度押して『OFF（■）』にすると、[8]入力切り替えスイッチで選択したプログラムソースの再生になります。

**ご注意**

パワーアンプダイレクトスイッチを『ON（▂）』にした場合、本機のボリウムコントロール、バランスコントロール、トーンコントロールは効きません。音量の調節は入力側の機器で行なってください。
パワーアンプダイレクトスイッチが『ON』の場合、信号がボリウムコントロールを通過しないため、本機は最大音量となっています。切り替える際には、入力側の機器の出力レベルを確認してから切り替えてください。入力側の機器の出力レベルが高く設定されていると、切替え時に突然大きな音で再生されることがあります。

## [10] トーンディフィートスイッチ（TONE DEFEAT）

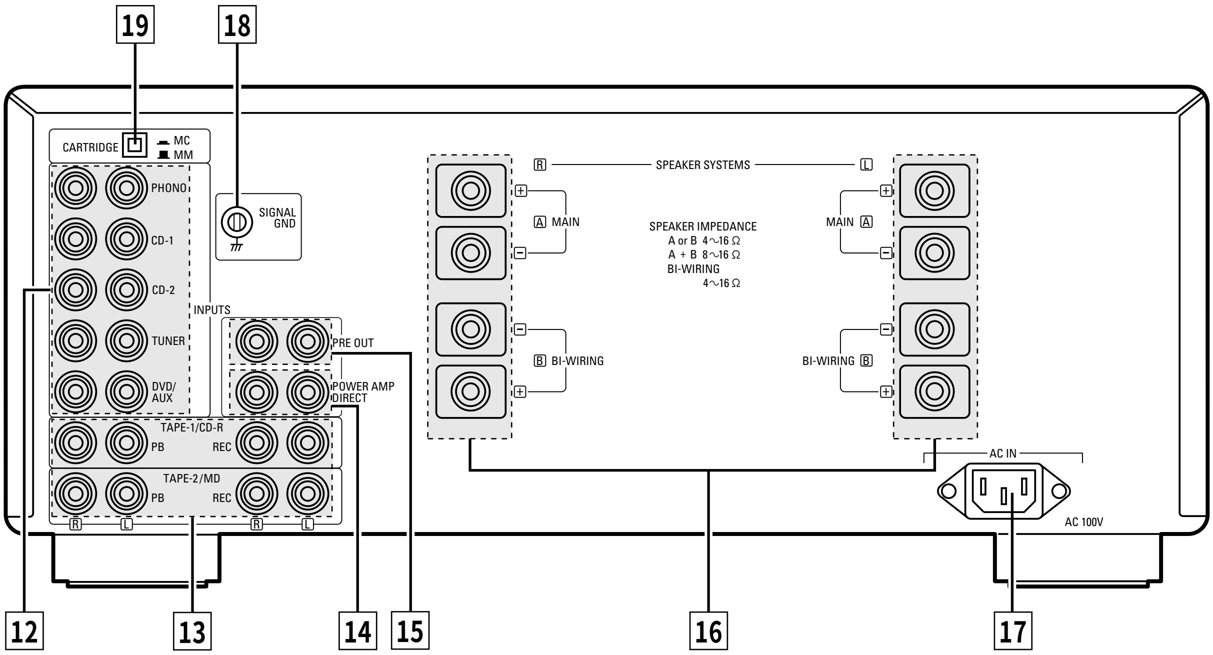
- 押して『ON（▂）』にすると周波数特性はフラット（平坦）となり[3]低音調節つまみ（BASS）、[4]高音調節つまみ（TREBLE）で音質の調節ができなくなります。
- もう一度押して『OFF（■）』にすると、信号は音質調整回路を通りますので、お好みの音質に[3]低音調節つまみ（BASS）、[4]高音調節つまみ（TREBLE）で調節してください。

## [11] 電源表示LED

- セットの動作状態をLEDで表示します。
動作状態では青色に点灯し、電源を切ると消灯します。

# 各部の名前とはたらき（つづき）

## (2) リアパネル




### 12 入力端子（INPUTS）

- レコードプレーヤー、CDプレーヤー、チューナー、その他の再生機器の入力端子です。

**ご注意**

- PHONO入力端子にはショートピンプラグが付属しています。レコードプレーヤーを接続する場合は外してください。外したショートピンプラグはなくさないように大切に保管しておいてください。
- REC（録音出力）端子やプリアウト端子には絶対にショートピンプラグは挿入しないでください。音が出なくなったり、本機だけでなく接続している他の機器の故障の原因になります。

### 13 テープ入出力端子（TAPE-1/CD-R、TAPE-2/MD）

**PB（再生入力端子）：**

テープデッキなどの再生出力（LINE OUTまたはPB）端子と接続します。

**REC（録音出力端子）：**

テープデッキなどの録音入力（LINE INまたはREC）端子と接続します。

### 14 パワーアンプダイレクト端子（POWER AMP DIRECT）

- パワーアンプへ直接入力する端子です。
- 音量の調整は接続する機器側で行なってください。
- パワーアンプ部の増幅率はデノンの他のコンポーネントと組み合わせをしやすいように29dBに設計されております。

### 15 プリアウト端子（PRE OUT）

- パワーアンプやパワーアンプ内蔵型のサブウーハーなどを増設するときに使用します。
- 増設のパワーアンプやサブウーハーなどの入力端子と本機のプリアウト端子を接続します。

**ご注意**

- プリアウト端子はヘッドホン使用時にも信号が出力されます。
信号を遮断したい場合は、接続した機器（パワーアンプなど）で操作してください。
また、パワーアンプダイレクトでの使用時にはプリアウトは出力されません。

# 各部の名前とはたらき（つづき）

### 16 スピーカー端子（SPEAKER SYSTEMS）

- スピーカーシステムを接続します。
  （13〜14ページ参照）

### 17 電源入力コネクター（AC IN）

- 付属の電源コードを接続します。
- 付属の電源コード以外は使用しないでください。

**ご注意**

電源入力コネクターのアース端子（GND）は接続されていません。

### 18 アース端子（SIGNAL GND）

- レコードプレーヤーのアース線を接続する端子です。

**ご注意**

この端子はレコードプレーヤーなどを接続した場合の雑音の低減をはかるためのものです。安全アースではありません。

### 19 カートリッジ切り替えスイッチ

- 使用するレコードプレーヤーのカードリッジの種類により、このスイッチを押してMM（■）またはMC（▬）に切り替えてください。

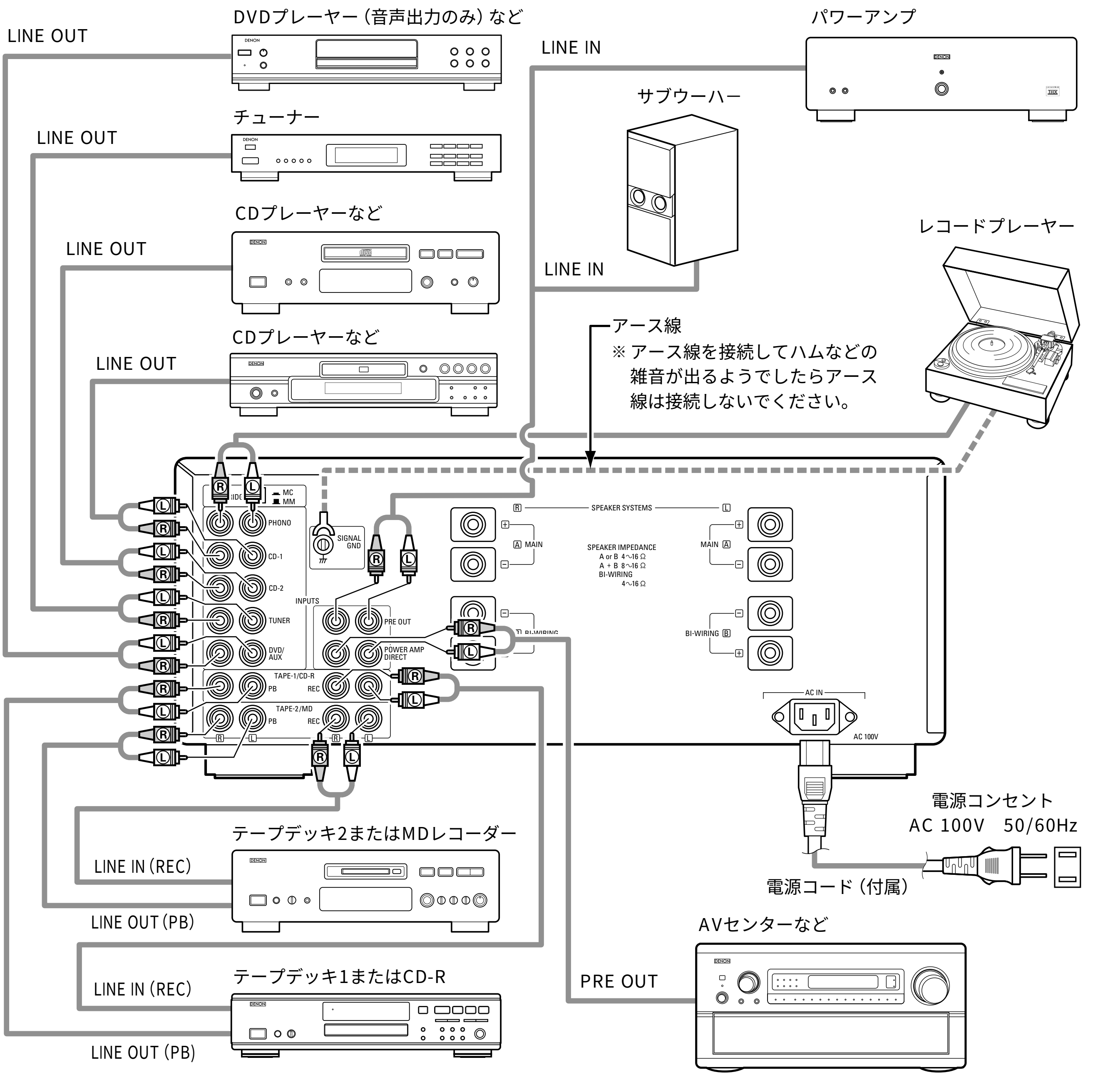
# 6 接続のしかた

## ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくLとL、RとRを接続してください。
- 電源プラグは確実に差し込んでください。
不完全な接続は、雑音発生の原因になります。
- 接続コード（ピンコード）と電源コードを一緒に束ねたり、テレビなど他の電気製品の近くに接続コード（ピンコード）を設置しますと、ハムや雑音の原因になることがあります。
- 入力端子“ PHONO ”は非常に感度の高い端子ですので、レコードプレーヤーを接続しないで音量を上げることは避けてください。接続せずに音量を上げた場合、“ ブーン ”という誘導ハム音がスピーカーから出ることがあります。レコードプレーヤーを接続しない場合は、付属のショートピンプラグを差しておいてください。

## （1）オーディオ機器の接続

★接続の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



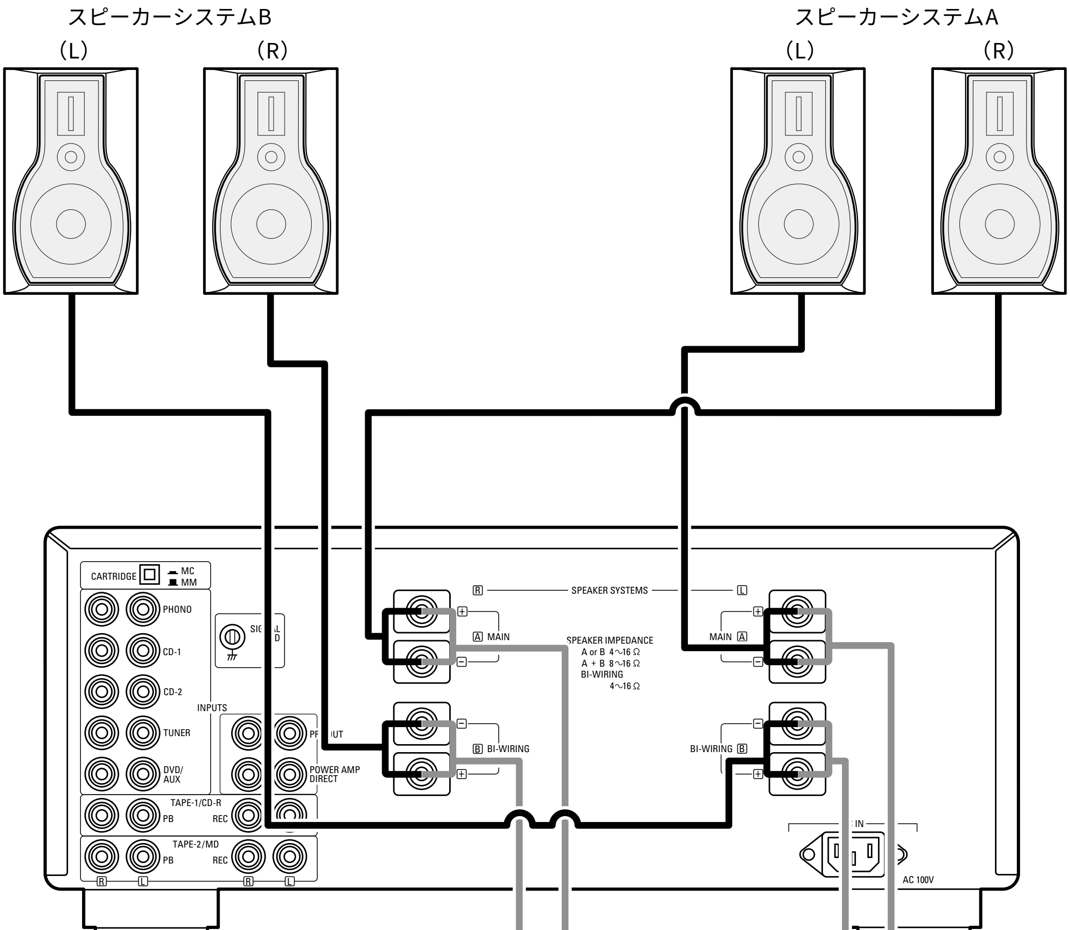
# 接続のしかた（つづき）

## (2) 電源コードの接続

★本機に付属の電源コードには極性が表示されています。
　お好みの音質になるように電源コンセントへ挿入してください。

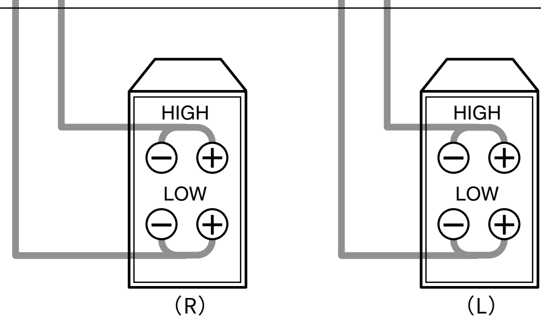
## (3) スピーカーシステムの接続

★接続の際は、各スピーカーの取扱説明書もあわせてご覧ください。




### バイワイヤリング接続について

バイワイヤリング接続が可能なスピーカーを接続する場合は、スピーカーの高域の端子と本機のSYSTEM A（またはSYSTEM B）、低域の端子と本機のSYSTEM B（またはSYSTEM A）をそれぞれ接続してください。高域用スピーカーユニット、低域用スピーカーユニットそれぞれの干渉を少なくした再生が可能になります。




スピーカーシステム（バイワイヤリング）

# 接続のしかた（つづき）

**SA（スーパーオーディオ）ソース**
**再生時のご注意**

**通常（SAに対応していない）のスピーカーを接続する場合は、プレーヤー（DVD・SACD）の特性ポジション設定を通常のスピーカー（またはアンプ）に合わせたポジションにしてください。**
DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどのSAソースは、可聴帯域を越える高域成分を含んでいます。通常のスピーカーは可聴帯域にあわせ設計されていますので、再生音量を上げすぎるとスピーカーを損傷することがあります。（プレーヤーの設定については、プレーヤー付属の取扱説明書を参照してください。）

- スピーカー端子とスピーカーシステムは、必ず同じ極性（⊕と⊕、⊖と⊖）を接続してください。極性を間違えて接続すると中央の音が抜けたようになり、楽器の定位がはっきりせずステレオの方向感がそこなわれます。
- 接続の際、スピーカーコードの芯線が端子からはみだして他の端子に接触しないようにしてください。またスピーカーコードの芯線どうし、および芯線がリアパネルに接触しないようにご注意ください。故障の原因になります。

**ご注意**

通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

## ■スピーカーのインピーダンスについて

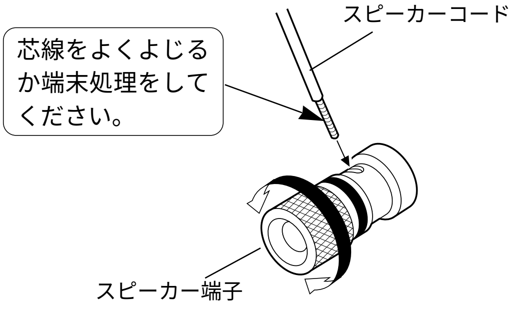
- スピーカーシステムAまたはBの一方を使用する場合は、インピーダンスが4〜16Ωのスピーカーを使用してください。
- スピーカーシステムAとBを同時に使用する場合は、インピーダンスが8〜16Ωのスピーカーを使用してください。インピーダンスが8〜16Ω以外のスピーカーを使用すると故障の原因になりますので、ご注意ください。
- なお、本機にはスピーカーシステムの切り替えスイッチは装備されておりません。
- スピーカー出力端子のAとBは並列に接続されています。
- バイワイヤリング接続の場合はインピーダンスが4〜16Ωのスピーカーを使用してください。
- 上記のインピーダンス以外のスピーカーを使用した場合に、保護回路が動作する場合があります。

**保護回路について**

本機には高速プロテクター回路が内蔵されています。
これはアンプの出力短絡や周囲の温度異常などが発生した場合に、スピーカーを保護するためのものです。この保護回路が動作しますと、スピーカー出力は自動的に遮断されます。このような場合は必ず本機の電源を一度切り、スピーカーケーブルの接続を再度確認してからもう一度電源を入れ直してください。数秒間のミューティング時間後、セットは正常に動作します。

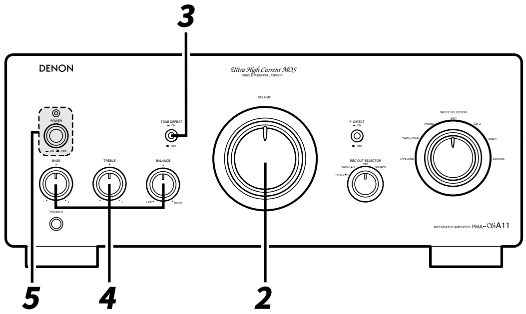
## ■スピーカーコードの接続

①コードの端の被覆をむきます。
②芯線をよじります。
③スピーカー端子を左に回してゆるめます。
④コードの芯線部分を全部差し込み、右に回して端子を締めます。



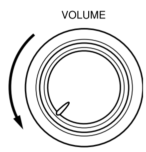
# 7 操作のしかた

## (1) 再生前の準備




**1** 『接続のしかた』(12～14ページ) を参照して、接続に間違いがないことを確認します。

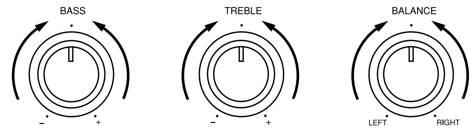
**2** 音量調節つまみ (VOLUME) を左 (↶) に回しきり、音量を最小にします。



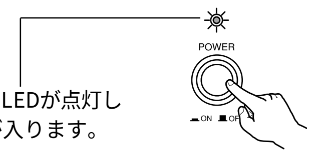

**3** トーンディフィートスイッチ (TONE DEFEAT) を『OFF (▆)』にします。




**4** 低音調節つまみ (BASS)、高音調節つまみ (TREBLE)、バランス調節つまみ (BLANCE) をそれぞれ中央の位置にします。



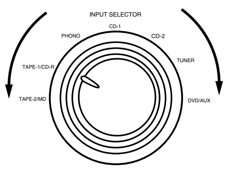

**5** 電源スイッチ (POWER) を『ON (▁)』にします。




電源表示LEDが点灯して電源が入ります。

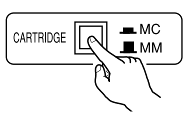
## (2) 再生のしかた

**1** 入力切り替えスイッチ (INPUT SELECTOR) で、再生したいプログラムソースを選びます。



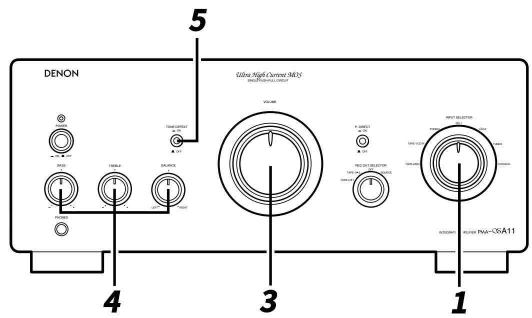

- TAPE-2/MD端子に接続した機器の音を聞くとき ･･････････“TAPE-2/MD”
- TAPE-1/CD-R端子に接続した機器の音を聞くとき ･････････“TAPE-1/CD-R”
- レコードを聞くとき ･･････････････“PHONO”

> レコードを聞くときは、使用するプレーヤーのカートリッジの種類に合わせてリアパネルのカートリッジ切り替えスイッチをMM (▆) または、MC (▁) に切り替えてください。

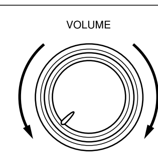



- CD-1端子に接続した機器の音を聞くとき ･･････････････････････“CD-1”
- CD-2端子に接続した機器の音を聞くとき ･････････････････････“CD-2”
- FMやAM放送を聞くとき ･･････････“TUNER”
- DVD/AUX端子に接続した機器の音を聞くとき ･･･････････“DVD/AUX”

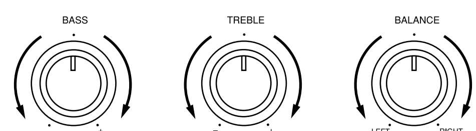
**2** プログラムソースの再生をはじめます。
- 操作のしかたは再生する機器の取扱説明書をご覧ください。




**3** 音量調節つまみ (VOLUME) で音量を調節します。




**4** 低音調節つまみ (BASS)、高音調節つまみ (TREBLE)、バランス調節つまみ (BLANCE) でお好みの音質に調節します。

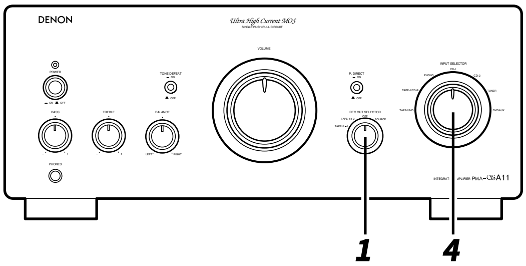



**5** 音質の調節が不要の場合はトーンディフィートスイッチ (TONE DEFEAT) を押してください。
- 音が音質調整回路 (BASS、TREBLE) を通らないため、より高音質な再生がお楽しみいただけます。

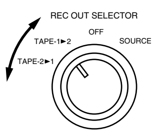
# 操作のしかた（つづき）

## (3) テープコピーのしかた

★本機に接続した2台のテープデッキでTAPE-1からTAPE-2またはTAPE-2からTAPE-1へテープのコピーができます。
★テープデッキの取扱説明書もあわせてご覧ください。




**1** **録音出力切り替えスイッチ（REC OUT SELECTOR）で録音したいテープデッキを選びます。**

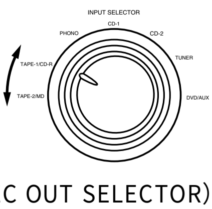



- TAPE-1/CD-R端子に接続したテープデッキから録音するとき ･･･････“TAPE-1 ► 2 ”
- TAPE-2/MD端子に接続したテープデッキから録音するとき･･･････“TAPE-2 ► 1 ”

**2** **録音側のテープデッキを録音状態にします。**

**3** **再生側のテープデッキを再生状態にします。**

**4** **入力切り替えスイッチ（INPUT SELECTOR）で録音する音声、または録音した音声を聞くことができます。**

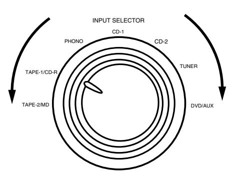



- 録音出力切り替えスイッチ（REC OUT SELECTOR）が“ TAPE-1 ► 2 ”のとき、入力切り替えスイッチ（INPUT SELECTOR）を“ TAPE-1/CD-R ”にすると録音する音声、“ TAPE-2/MD ”にすると録音した音声が聞けます。
- 録音出力切り替えスイッチ（REC OUT SELECTOR）が“ TAPE-2 ► 1 ”のとき、入力切り替えスイッチ（INPUT SELECTOR）を“ TAPE-2/MD ”にすると録音する音声、“ TAPE-1/CD-R ”にすると録音した音声が聞けます。

※ **注意**：録音中に入力切り替えスイッチ（INPUT SELECTOR）を切り替えると、録音音声が途切れることがあります。入力切り替えを設定してから録音をはじめてください。

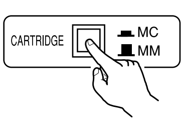
## (4) 録音のしかた（テープコピー以外）

**1** **入力切り替えスイッチ（INPUT SELECTOR）で、録音したいプログラムソースを選びます。**

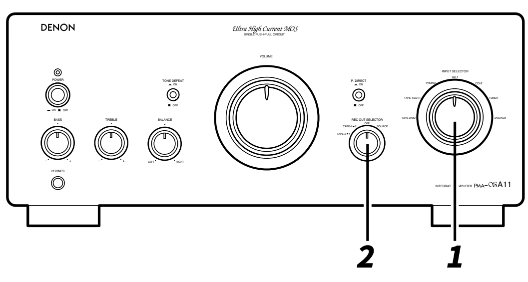



- TAPE-2/MD端子に接続した機器の音を録音するとき･･･････“TAPE-2/MD ”
- TAPE-1/CD-R端子に接続した機器の音を録音するとき ･････“TAPE-1/CD-R ”
- レコードを録音するとき ･･････････“PHONO ”

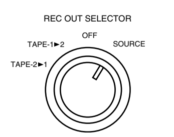
> レコードを録音するときは、使用するプレーヤーのカートリッジの種類に合わせてリアパネルのカートリッジ切り替えスイッチをMM（▀）または、MC（▄）に切り替えてください。




- CD-1端子に接続した機器の音を録音するとき ･････････････････“CD-1 ”
- CD-2端子に接続した機器の音を録音するとき ･････････････････“CD-2 ”
- FMやAM放送を録音するとき ･･････“TUNER ”
- DVD/AUX端子に接続した機器の音を録音するとき ･･････“DVD/AUX ”




**2** **録音出力切り替えスイッチ（REC OUT SELECTOR）を“ SOURCE ”の位置にします。**




**3** **録音するテープデッキを録音状態にします。**
- 操作のしかたは録音する機器の取扱説明書をご覧ください。

**4** **録音したいプログラムソースの再生をはじめます。**
- 操作のしかたは再生する機器の取扱説明書をご覧ください。

# 8 主な仕様

**■パワーアンプ部**

| | | |
|---|---|---|
| 定格出力 | 両チャンネル駆動（CD→SP OUT） | |
| | 120W＋120W（負荷8Ω、20Hz〜20kHz） T.H.D 0.07% | |
| 実用最大出力 | 240W＋240W（負荷4Ω、1kHz） T.H.D 0.7% | |
| 全高周波ひずみ率 | 0.01%（定格出力ー3dB時）、負荷8Ω、1kHz | |
| 出力端子 | スピーカー/A or B：負荷4〜16Ω、A＋B：負荷8〜16Ω | |
| | ヘッドホン/ステレオヘッドホン適合 | |
| 入力感度/インピーダンス | P.DIRECT | ：1.1V/47kΩ |
| 増幅率 | 29dB | |

**■プリアンプ部**

| | | |
|---|---|---|
| イコライザーアンプ出力（REC OUT端子） | 定格出力　150mV | |
| 入力感度/入力インピーダンス | PHONO（MM） | ：2.5mV/47kΩ |
| | PHONO（MC） | ：200μV/100Ω |
| | CD-1、CD-2 | ：165mV/13kΩ |
| | TUNER、DVD/AUX | |
| | TAPE-1/CD-R、TAPE-2/MD | |
| RIAA偏差 | PHONO | ：20Hz〜20kHz±0.5dB（MM） |
| | | 30Hz〜20kHz±0.5dB（MC） |
| 定格出力 | PRE OUT | ：1.0V（入力CD-1、150mV入力） |
| 増幅率 | 16.5dB | |

**■総合特性**

| | | |
|---|---|---|
| SN比（Aネットワーク） | PHONO（MM） | ：89dB（入力端子短絡、入力信号5mV時） |
| | PHONO（MC） | ：74dB（入力端子短絡、入力信号0.5mV時） |
| | CD-1、CD-2 | ：108dB（入力端子短絡時） |
| | TUNER、DVD/AUX | |
| | TAPE-1/CD-R、TAPE-2/MD | |
| 周波数特性 | 5Hz〜100kHz（0〜ー3dB） | |
| トーン・コントロール | BASS（低域） | ：100Hz±8dB |
| | TREBLE（高域） | ：10kHz±8dB |

| | |
|---|---|
| **■電源** | AC100V　50/60Hz |
| **■消費電力** | 380W（電気用品安全法による） |
| **■最大外形寸法** | 434（幅）×181（高さ）×494（奥行き）mm（含フット、ツマミ、端子） |
| **■質量** | 29kg |

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。
必ずAC100Vのコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。
AC100V以外の電源には絶対に接続しないでください。

# 9 故障かな？と思ったら

## 故障？と思っても、もう一度確かめてみましょう

**■各接続は正しいですか**
**■取扱説明書に従って正しく操作していますか**
**■スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか**

セットが正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。なお、この表の各項にも該当しない場合は、本機の故障とも考えられますので、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きとり、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、販売店でおわかりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

| | 現　象 | 原　因 | 処　置 | 関連ページ |
|---|---|---|---|---|
| レコード・テープ演奏・FM受信中など共通して起こるとき | 電源スイッチ（POWER）を入れても、電源表示LEDが点灯せず音も出ない。 | ●電源コードが抜けている。 | ●電源コードプラグの差し込みを点検してください。 | 12 |
| | 電源表示LEDは点灯するが、音が出ない。 | ●スピーカーコードの接続が不完全である。<br>●入力切り替えスイッチ（INPUT SELECTOR）の位置が不適当である。<br>●音量調節つまみ（VOLUME）が絞ってある。<br>●入力コードの接続が不完全である。 | ●接続し直してください。<br>●正しい位置に切り替えてください。<br>●音量調節つまみ（VOLUME）を再調整してください。<br>●接続し直してください。 | 13、14<br>9、15<br>8、15<br>12 |
| | 片側だけ音が出ない。 | ●スピーカーコードの接続が不完全である。<br>●入力コードの接続が不完全である。<br>●左右のバランスがずれている。 | ●接続し直してください。<br>●接続し直してください。<br>●バランス調節つまみ（BALANCE）を正しく調節してください。 | 13、14<br>12<br>8、15 |
| | ステレオのときに、各楽器の位置が左右入れ替わっている。 | ●左右スピーカー、または左右入力コードの接続が逆になっている。 | ●左右の接続を確かめてください。 | 12～14 |
| レコード演奏のとき | レコード演奏のときに、“ ブーン ”という音が出る。 | ●プレーヤーのアース線が外れている。<br>●PHONO端子の接続が不完全である。<br>●プレーヤーの近くにテレビやVTRがあるため、影響を受けている。 | ●接続し直してください。<br>●接続し直してください。<br>●設置位置を変えてみてください。 | 11、12<br>12<br>— |
| | レコード演奏のときにボリウムを大きくしていくと“ ワーン ”という音が出る。（ハウリング現象） | ●プレーヤーとスピーカーシステムとの距離が近すぎる。<br>●床が柔らかく振動しやすい。 | ●できるだけ離して使うようにしてください。<br>●床を伝わってくるスピーカーの振動をクッションで吸収するようにして使用してください。プレーヤーにインシュレーターが付いていないときには、市販のオーディオインシュレーターを使ってください。 | —<br>— |
| | 音がビリつく。（ひずんで聞こえる） | ●針圧が適当でない。<br>●針先にゴミがついている。<br>●カートリッジの不良。 | ●正しい針圧に調整してください。<br>●針先をチェックしてください。<br>●カートリッジを交換してください。 | —<br>—<br>— |

# 10 保証とサービスについて

1 この商品には保証書が添付されております。
保証書は所定事項をお買い上げの販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保存してください。

2 保証期間は、お買い上げ日より2年間です。
万一故障した場合には、保証書の記載内容により、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口が修理を申し受けます。
但し、保証期間内でも保証書が添付されない場合は、有料修理となりますのでご注意ください。
詳しくは保証書をご覧ください。

※修理相談窓口については、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

3 保証期間後の修理については、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4 本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

5 保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
※当社製品のお問い合わせについては、お客様相談窓口にご連絡ください。
詳しくは、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

DENON

**デノンお客様相談センター**

☎ 044-670-5555

**【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】**

受付時間　9：30 ～ 12：00、12：45 ～ 17：30
（当社休日および祝日を除く、月～金曜日）

〒210-8569　神奈川県川崎市川崎区日進町 2 番地 1　D&M ビル

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の当社ホームページでもご確認いただけます。

http://denon.jp/jp/support/pages/servicecenter.aspx

| 後日のために記入しておいてください。 | |
|---|---|
| 購入店名： | 電話（　　-　　-　　） |
| ご購入年月日： | 年　　月　　日 |

株式会社 ディーアンドエムホールディングス

Printed in Japan　00D 511 4232 002